

災害時に相互応援

民児協が県境を越え締結

長崎・熊本・鹿児島3県の7市町の民生委員児童委員協議会（民児協）が9月8日、熊本県天草市のホテルアレグリアガーデンズ天草で、大規模災害時に互いに委員を派遣し合う「災害時相互応援協定」を結びました。

今回協定を結んだのは、長崎県から島原市・南島原市、熊本県から天草市・上天草市・苓北町・益城町、鹿児島県から本町の計7市町の民児協です。

締結式には、各民児協の会長や関係者ら約50人が出席し、本町からは長島町民生委員児童委員協議会の川田幸則会長が出席しました。

全国民生委員児童委員連合会によると、民児協で3県をまたがる広域の協定締結は全国初とのこと。

今後、協定を結んだ3県間で大規模災害が発生し被災地の民児協が機能しなくなった場合、被災地以外の民児協が委員を派遣し、要援護者の安否確認や被災地のニーズ把握、避難者への情報提供などにあたります。

終了後は、益城町民生委員児童委員協議会の稲田ハツコ会長



↑協定書に調印し握手を交わす各民児協会長

が熊本地震の体験を踏まえた記念講演を行い、地震後に車中泊しながら一人暮らしの高齢者宅を回ったことや、今も仮設住宅で暮らしながら活動している委員がいる実情などを紹介しました。

川田会長は「いざという時に、近隣市町村間でスムーズな連携対応が実現できれば」と期待を込めました。

読書の秋

「心の栄養」を育もう

町では子どもたちの読書活動を推進しています。

鷹巣小学校（大野憲久校長・197人）では、読書ボランティアサークル「おやどり読書会（下平忍代表）」を招き、全学年を対象に本の読み聞かせを定期的に実施しています。

での読み聞かせを実施した後、子どもへの読み聞かせの効果を伺いました。

読書のきっかけ作り

自発的に読書に向かう子どもは、多くありません。

読み聞かせで子どもが興味を持った1冊の本に出会えれば、



↑おやどり読書会の読み聞かせの様子（鷹巣小学校）

関連する本にも興味を持ち、子どもの知的好奇心を助長させます。

語彙力の向上

読書では、日常会話では使われない語彙や文法構造も学ぶことができます。

読み聞かせにより、語彙を獲得し、識字能力を高めます。

親子のコミュニケーション

親は、子どもに読み聞かせる本を決めるためには、日頃から子どもがどのようなことに興味を持っているか把握する必要があります。

読み聞かせる際には、親はどのように音読すれば、子どもが興味を持って聞いてくれるか考えないといけません。

読み聞かせを通じて、子どもは親の知らない一面を現すこともあり、親にとっても知る機会となります。

